

地球上の核弾頭全データ



2015年4月27日の米国防総省ファクトシートによると、米国防総省は核弾頭の保管状態を「活性状態」と「不活性状態」に大別している。前者はそのまま使用できる弾頭であり、後者は時間が経過すると劣化するトリチウムや電池などを除いて貯蔵している弾頭である。その結果、米国の核弾頭は次の4種類に分類できる。このような分類方法が、その他の国で通用するかは必ずしも明らかではないが、本書では同様な分類によってデータを整理した。

- ① **作戦配備の弾頭** 部隊に配備・貯蔵されている活性状態の弾頭。(ただし、オーバーホール中の原潜の核弾頭は作戦配備に含めない。)
- ② **兵站予備の弾頭** ルーチン整備・検査のために確保されている活性状態にあるスペア弾頭。米国の戦略核兵器については一定の情報があり、推定できる。
- ③ **中央貯蔵の弾頭** 活性、不活性を含め、使用の可能性を想定して貯蔵しているもの。迅速対応戦力もこれに含めた。迅速対応戦力とは、作戦配備から外した核弾頭の中でも情勢の変化によって復活させることを前提として活性状態で貯蔵するものである。中国のように核弾頭を使用部隊に置かず中央貯蔵する体制では、すべての弾頭がこれに分類される。フランスの空母艦載機用核兵器も同様である。
- ④ **退役弾頭** 運搬手段から外され解体を前提に保管されている核弾頭。

以下の図表の作成においては、②と③を合わせて「作戦外貯蔵」とする。

NPT非加盟の核保有国であるインド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮を含めると、地球上には今なお13,400発近くの核弾頭があり、オーバーキル状態は変わらない。

出典：長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)核弾頭データ追跡チームの市民データベース(2020年6月)を基本に作成した。(核弾頭データ追跡チーム・メンバー：鈴木達治郎、中村桂子、冨塚明、梅林宏道、湯浅一郎)

それぞれの構成部分についての註記：

1. 要約表

RECNAの表をもとに簡略化した。

https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nuclear1/nuclear_list_202006

2. 要約地図

ピースデポ作成。

3. 国別詳細

RECNAの「世界の核弾頭データ」(以下のURL)およびH.クリステンセン、M.コルダ「ニュークリア・ノートブック」(『プレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスト』)に連載)を参照して作成。

<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nuclear1>

4. 核兵器依存国

各国の防衛白書や防衛政策文書。NATO、日本、韓国、カナダは米国との軍事協議文書などによる。

表「欧州配備の米核弾頭」は以下による。

<https://fas.org/blogs/security/2017/10/steadfast-noon-exercise/>

アクセス日：2021年4月17日

❖ 地球上の核弾頭 ❖

1 要約表

2020年6月

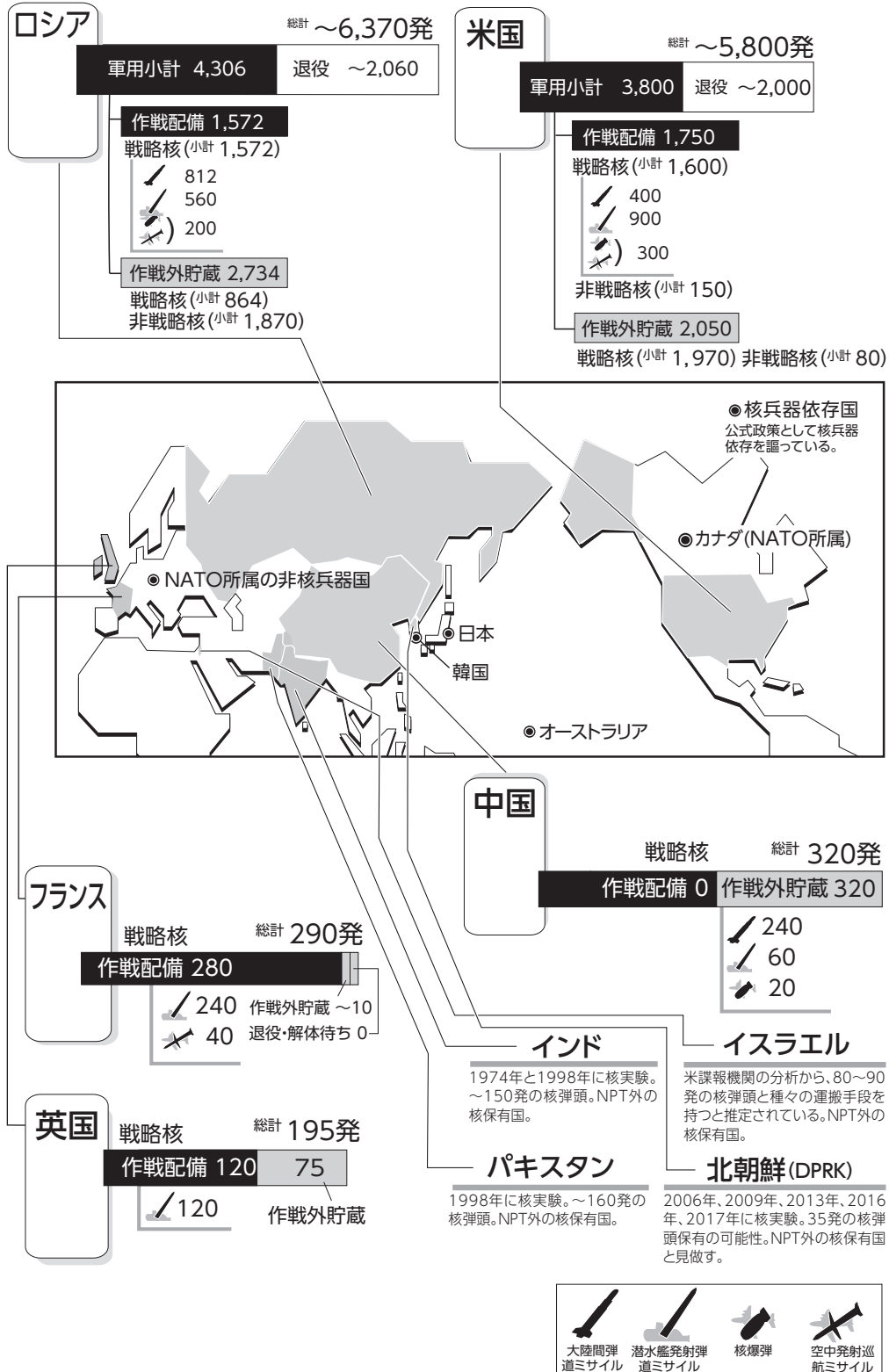
国名	軍用小計 ¹	作戦配備			作戦外貯蔵			退役・解体待ち等	全保有数
		ICBM (大陸間弾道ミサイル)	SLBM (潜水艦発射弾道ミサイル)	爆撃機など航空機搭載	ICBMなど地上配備	SLBMなど海洋配備	爆撃機など航空機搭載		
米国	3,800	1,750			2,050			~2,000	~5,800
		400	900	450 ²	400	1,020	630		
ロシア	4,306	1,572			2,734			~2,060	~6,370
		812	560	200	794	1,060	880		
英国	195	120			75			0	195
		0	120	0	0	75	0		
フランス	290	280			~10			0	290
		0	240	40	0	0	~10		
中国	320	0			320			0	320
					240	60	20		
インド	~150	0			~150			0	~150
					~70	~30	~48		
パキスタン	~160	0			~160			0	~160
					~118	0	~42		
イスラエル	80~90	0			80~90			0	80~90
					50	(10)	30		
北朝鮮	~35	0			~35			0	~35
					?	?	0		
合計	~9,346	~3,722			~5,624			~4,060	~13,410

丸めのため合計にくい違いがある。

- 1: 作戦配備と作戦外貯蔵の合計。
 2: このうち150発は航空機搭載の非戦略核。

2 要約地図

2020年6月



2020年6月

3 国別詳細

米国(計 ~5,800)		
兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
■ 軍用小計(合計3,800)¹		
■ 作戦配備(小計1,750)		
[戦略核]		
● ICBM(小計400)		
ミニットマンⅢ		400
Mk-12A型(弾頭:W78)	335	200 ²
Mk-21型(弾頭:W87)	300	200 ³
● SLBM ⁴ (小計900)		
トライデントⅡ D5		900 ⁵
Mk-4A型(弾頭:W76-1)	100	466 ⁶
Mk-4A型(弾頭:W76-2) ⁷	5~7	50
Mk-5型(弾頭:W88)	455	384
● 爆撃機搭載核兵器 ⁸ (小計300)		
核爆弾 B61-7	可変<10~360	100 ¹⁰
B61-11 ⁹	400	
B83-1	可変<1,200	
ALCM(弾頭:W80-1)	5~150	200 ¹¹
[非戦略核]		
空軍航空機(150)		
核爆弾 B61-3,4	0.3~170	150 ¹²
■ 作戦外貯蔵(小計2050)		
ICBM		400 ¹³
SLBM		1020 ¹⁴
戦略爆撃機		550 ¹⁵
非戦略核B61-3,4		80 ¹⁶
■ 退役解体待ち(小計 ~2,000)¹⁷		

- 1 米国防総省による最新の備蓄核弾頭数3,822発(2017年9月30日現在)に相当する。政府発表以降の退役を考慮すると極めてよく一致していると言える。
- 2 14年6月、単弾頭化が完了した。
- 3 単弾頭が200基。
- 4 オハイオ級戦略原潜12隻に搭載。ミサイル数は、従来288基(12×24)とされてきた。17年末までに12隻において発射管を24本から20本へ削減した結果、ミサイル数は240基となった。原潜数は14隻であるが、常時2隻はオーバーホール。
- 5 弾頭数は総数1,600発からICBM400発、爆撃機搭載300発を差し引いて900発と推定。
- 6 W76-1は08年10月末から配備が始まった。W76からの置き換えが続いているが、一部がW76-2に改造された。
- 7 19年2月22日、W76-1弾頭を5-7キロトンの低威力に改造したW76-2弾頭の第1生産ユニットがパンテックス・プラントに完成した。19会計年度末までに約50発が配備された。
- 8 ストラトフォートレスB-52H(87機のうちの44機)、スピリットB-2A(20機のうちの16機)、計60機が核任務に就いている。警戒態勢は低い。
- 9 地中貫通型(97年11月に導入)。貫通は6m。
- 10 B-2Aのみ搭載。
- 11 B52-Hのみ搭載。
- 12 迅速対応戦力も含めて150発がNATO軍用としてヨーロッパ5か国の6か所の空軍基地に配備(45頁別表参照)。
13. ミニットマンⅢ単弾頭化で余剰となったW78弾頭。
14. オーバーホール中の2隻の原潜搭載分が含まれる。
15. 空軍基地には置かれず、中央保管庫に貯蔵。
- 16 米国内に貯蔵。ヨーロッパ配備のものを含めると計230発がある。トマホークSLCM W80-0弾頭260発は退役した。
- 17 他に弾頭の形ではなくて、一次爆発用プルトニウム・ピット約20,000発と二次爆発部分約4,000発を分離して貯蔵しているとされる。

フランス(計290)		
兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
■ 戦略核(小計290)		
【作戦配備(小計280)】		
● SLBM ¹ (小計240)		
MSBS ² M51 ³ (弾頭:TN75)	100	240 ⁴
● 戦闘攻撃機搭載核兵器(小計40)		
ASMP-A ⁵ (弾頭:TNA) 可変~300		40 ⁶
● 空母艦載機用核兵器(小計0)		
ASMP-A(弾頭:TNA) 可変~300		0 ⁷
【作戦外貯蔵(小計~10)】		
● 航空機搭載		10 ⁸

- 1 4隻の戦略原潜に搭載。10年9月20日、M51装備のル・テリブルが就航し、トリオンファン級原潜4隻体制になった。うち1隻が抑止パトロールに就いている。
- 2 フランス語で「艦対地戦略弾道ミサイル」の頭文字。
- 3 現在はすべてM51であるが元々はM45であった。ル・テリブルは、10年1月27日、7月10日に発射テスト。13年5月5日、発射テスト失敗。
- 4 4隻の戦略原潜のうち3隻に配備。3隻×16発射管×(4~6)MIRV。平均すると5発の多弾頭。
- 5 フランス語で「空対地中距離改良型ミサイル」の頭文字。このミサイルは射程500kmの巡航ミサイル。
- 6 ラファールBF3、40機にASMP-A搭載。1機あたり1弾頭。弾頭は40と見積もられる。下記空母艦載機用などの作戦外貯蔵を含め、ASMP-Aの総数は55発。これがオランド大統領発表(15年2月19日)の54発に該当。
- 7 唯一の空母ドゴール(原子力)は、平時においては核兵器は搭載していない。空母艦載機ラファール海軍型10機に搭載のためのASMP-Aは陸上に配置。
- 8 爆撃機用ASMP-A、及び空母艦載機用ASMP-A約10発と推定。

ロシア(計 ~6,370)

兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
軍用小計 (合計 4,306)		
作戦配備 (小計 1,572)		
● ICBM (小計 812)		
SS-18 M6、サタン (RS-20)	500~800	276 ¹
SS-19 M3、スチレトウ (RS-18)	400	0 ²
SS-19 M4、スチレトウ ³	150	2
SS-25、シックル (RS-12M、トーポリ)	800	36 ⁴
SS-27 I 型 (RS-12M2、トーポリM)	800	60 ⁵
SS-27 I 型 (RS-12M1、トーポリM)	800	18 ⁶
SS-27 II 型 (RS-24、ヤルス)	100?	378 ⁷
SS-27 II 型 (RS-24、ヤルス) ⁸	100?	42
SS-X-29 (RS28、サルマート) ⁹	500?	-
● SLBM (小計 560) ¹⁰		
SS-N-18 M1、スチングレイ (RSM-50)	50	48 ¹¹
SS-N-23M1 (RSM-54、シネバ)	100	320 ¹²
SS-N-32 (RSM-56、ブラバ)	100	192 ¹³
● 爆撃機搭載核兵器 (小計 200)		
核爆弾		
ALCM (弾頭: AS15A、B)	200	200 ¹⁴
SRAM (弾頭: AS16)		
作戦外貯蔵 (小計 2,734)		
[戦略核 (小計 864)]		
● ICBM		324 ¹⁵
● SLBM		160 ¹⁶
● 爆撃機搭載核爆弾		380 ¹⁷
[非戦略核 (小計 1,870) ¹⁸]		
● ABM/SAM (小計 358)		
SH08、ガゼル (53T6)	10	68 ¹⁹
SA-10、グランブル (S-300P)		
SA-12、ジャイアント (S-300V)	low	
SA-21、グロウラー (S-400)		
● 空軍航空機 (小計 530)		
核爆弾/ALCM AS-4、キッチン	1000	500 ²¹
/SRAM AS-16		
● 海軍用戦術核 (小計 820)		
核爆弾		
ALCM AS-4、キッチン	1000	900
SLCM	200~500	
対潜核兵器、SAM、核魚雷、核爆雷		
● 地上発射 (小計 87)		
SS-21、スカラブ (トチカ)	100	
SS-26、ストーン (イスカンデル) ²²	100	70
SSC-8 GLCM		20
● 沿岸防衛用対艦ミサイル (小計 24)		
SSC-1B、セパル (レダト)	350	4
SSC-5、ストゥージ		20
退役解体待 (小計 ~2,060)		

- 6MIRV×46基。START IIが無効になり保持。しかし削減が続く。液体燃料。2026年まで保持の見込み。
- 60発すべて取り外された。
- 極超音速滑空体アバンガード(核、非核両用)を搭載予定。
- 単弾頭。ロシア名トーポリ。道路移動型で固体燃料。前年からの変化では、27基のSS-25がRS-24ヤルスに置きかえられた。
- 単弾頭。サイロ型。軌道を変更できる弾頭もある。
- トーポリMの道路移動型。新しいカモフラージュ。
- RS-24という新型名で08年11月26日に試射成功。移動型。推定3MIRV×126基。
- サイロ型。14年に配備された。3MIRV×14基。
- 2段式液体燃料。サイロ型。
- 搭載原潜は、デルタⅢ級1隻、デルタⅣ級6隻、ボレイ型3隻。核ミサイルを搭載しないが、タイフーン級3隻も残っており、発射テストに使われている。
- デルタⅢ級戦略原潜1隻に搭載。1隻×16発射管×3MIRV。
- デルタⅣ級戦略原潜6隻に搭載。ただし1隻がオーバーホール中のため配備弾頭数は5隻×16発射管×4MIRV。10年8月6日、10月28日、11年9月29日に発射テスト。10MIRVの能力があるとの情報もある。
- 3隻×16発射管×4MIRV。08年9月、潜水発射に成功。10年10月7日、10月29日、更に11年6月28日、8月27日、12月23日、発射テストに成功。ブラバは14年に新型のボレイ型原潜に作戦配備された。
- ベアH6 (Tu-95MS6) 30機、ベアH16 (Tu-95MS16) 20機、ブラックジャック (Tu-160) 13機の計約63機のうち50機に搭載。ベアH6は1機あたりAS15Aまたは核爆弾を6発(計150発)、ベアH16は1機あたりAS15Aまたは核爆弾を16発(計480発)、ブラックジャックはAS15BまたはAS16、または核爆弾を12発(計156発)搭載する。貯蔵されており、航空機に配備されておらず2つの基地に配備と見積もる。また核任務についている戦略爆撃機としてベアH6/H16を55機、ブラックジャック11機、作戦配備のミサイル数として約200とする見積もりがある。
- 新STARTに適合させるため配備弾頭数を削減した分324発を作戦外貯蔵とした。
- 新STARTに適合させるため配備弾頭数を削減した分160発分を作戦外貯蔵とした。
- 核任務機に搭載可能な総数580発のうち、平時には200発が作戦配備とし、残り380発を作戦外貯蔵とした。
- ロシア政府は、戦術核はすべて中央貯蔵されているとしている。
- 弾道弾迎撃ミサイル。ゴーン・ミサイルはABM任務からはずされた。
- 防衛用の対空ミサイル。
- バックファイヤー (Tu-22)、フェンサー (Su-24)、フルバック (Su-34)に搭載。
- 移動型。射程50~500km。核・非核両用。米国の欧州MDに対抗して、飛び地の領土カリーニングラード州に配備した。

英国(計195)¹

兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
■戦略核(合計195)		
【作戦配備(小計120)】		
●SLBM ²		
トライデントII D5	100	120 ³
【作戦外貯蔵(小計75)】		
●SLBM	100	75

- 2010年5月26日、英政府は、作戦に供する弾頭数は160発以下と発表。15年1月、議会で作戦配備は120発に削減したと報告。これは2010年の発表通りの削減が5年で達成したことを意味する。総数は、昨年より20発低い。2020年代中頃までに総数を180発に減らす方向に沿って削減の過程にある
- バンガード級戦略原潜4隻に搭載。常時1隻が海洋パトロールする連続航行抑止(CASD)態勢をとっている。
- 弾頭は、米国のW76に類似だが英国産。パトロール中の原潜は40発の弾頭を持つので、その3隻分(120発)を作戦配備とする。

中国(計~320)

兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
■戦略核(小計320)		
【作戦配備(小計0)】 ¹		
【作戦外貯蔵(小計320)】 ²		
●ICBM/IRBM ³ (小計~238)		
東風-4(CSS-3) ⁴	3,300	10
東風-5A ⁵ (CSS-4M1)	4,000	5
東風-5B ⁵ (CSS-4M2)	200~300	45
東風-15(CSS-6) ⁷	?	?
東風-21 ⁸ (CSS-5)	200~300	80
東風-26 ⁹	200~300	34
東風-31 ¹⁰ (CSS-10M1)	200~300?	6
東風-31A ¹¹ (CSS-10M2)	200~300?	24
東風-31AG ¹²	?	24
東風-41 ¹³ (CSS-X-20)	?	10
●GLCM ¹⁴ DH-10(CJ-10)	?	?
●SLBM(小計60) ¹⁵		
巨浪-2 ¹⁶ (CSS-NX-4)	200~300?	60
●爆撃機搭載核兵器(小計20)		
核爆弾、ALCM		20 ¹⁷

- 運搬手段は配備されているが、弾頭は別に貯蔵。
- 288を丸めた。
- 東風はドンフォンと読む。東風-5A(射程13,000km)、東風-5B(射程13,000km以下)、東風-31(射程7,200km)、東風-31A(射程11,200km)はICBM(射程5500km以上)。東風-15は短距離、他はIRBM。東風-5Bと開発中の東風-41以外は単弾頭。
- 2段式。液体燃料。道路移動式。東風31に置き換えられつつある。近く退役する見通し。
- 米大陸に届く現有4種類のICBMの1つ。二段式。液体燃料。サイロ式。単弾頭。
- 米大陸に届くICBMの1つ。二段式。液体燃料。サイロ式。最新の米国防総省の報告書は、多弾頭であると記述。ここでは東風-5Aの5基が多弾頭3の東風-5Bになったとする。結果として多弾頭は15基となる。
- 1990年に核実験があったが、実用に至ったか不明。
- 二段式、固体燃料。道路移動式。単弾頭。さまざまな変型がある。
- 2015年に初登場した核・非核両用の新型ミサイル。射程4000km。道路移動式。
- 米大陸に届くICBMの1つ。三段式。道路移動式、固体燃料。06年初期配備。単弾頭。昨年より9発増え、増強されつつある。
- 米大陸に届くICBMの1つ。三段式。道路・レール移動式、固体燃料。単弾頭だが、ミサイル防衛に備えておとりなどを伴うと考えられる。
- 2017年の人民解放軍90周年パレードに初登場。核兵器能力。
- 開発中の道路移動型。97年に米国防総省が報告していたが、その後記述はなかった。14年に記述復活。文献によると、6-10弾頭が多弾頭化が可能。2016年4月19日、2弾頭の発射テストが行われた。核弾頭が準備されている可能性があり、10発とした。
- 対地攻撃用。核・非核両用と推定される。ミサイル数は不明。射程1500+kmとの推定あり。
- 常時1隻がパトロールしていると推測される。
- 巨浪はジュランと読む。新世代原潜ジン(晋)級(094型)に搭載する計画。13年に発射テストに成功。東風-31の変型で、単弾頭。最新の米国防総省報告では晋級は5隻が作戦配備、5隻目が建造中。弾頭数は5隻目のものを含めた。5隻×12発射管=60発。射程は7,200km。
- 爆撃機ホン(轟)-6(NATO名:B-6)100~120機のうちの20機が核任務を持つと推定。2019年、米国防総省によると、航空機の改造と空中発射弾道ミサイルの開発が行われている。

インド(計 ~150)

兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
■ 戦略核 (小計~150)		
【作戦配備 (小計0)】		
【作戦外貯蔵(小計~150)】 ¹		
●GLBM (小計~70)		
プリトビ ²	12	~24
アグニ ¹	40	~26
アグニ ²	40	~10
アグニ ³	40	~10
アグニ ⁴	40	?
アグニ ⁵	40	?
●海洋発射弾道ミサイル (小計30)		
ダナシユ ⁸	12	4
サガリカ (K-15,B-05) ⁹	12	(22)
K-4 ¹⁰	?	(4)
●航空機搭載爆弾 (小計~48)		
搭載機: ミラージュ2000H ¹¹ (バジュラ)	?	~32
搭載機: ジャガー1S/1B ¹² (シヤムシャー)	?	~16
●空中発射巡航ミサイル		
ニルバイ ¹³	?	?

- 148を丸めた。核弾頭は配備されずに貯蔵されている。すべて単弾頭。
- 射程350km。一段式。液体燃料。道路移動式。最

- 3 新の発射テストは2019年12月3日。射程700+km。二段式。固体燃料。道路移動式。最新の発射テストは2018年10月30日。
- 4 射程2000+km。二段式。固体燃料。道路移動式。最新の発射テストは2019年11月17日で、初の夜間発射。
- 5 射程3200+km。二段式。固体燃料。レール移動式。最新の発射テストは2019年11月30日。
- 6 射程3500+km。二段式。固体燃料。道路・レール移動式。最新の発射テストは2018年12月23日。
- 7 射程5200+km。三段式。固体燃料。レール移動式。最新の発射テストは2018年12月10日。アグニ6(6,000km)を開発中。
- 8 艦船発射式。射程400km。一段式。液体燃料。プリトビ2の海軍版。2016年に2回の軍による発射テストがある。最新の発射テストは2018年2月23日。
- 9 SLBM。射程700km。二段式。固体燃料。最新の発射テストは2013年1月27日。原潜アリハントに配備予定で、同艦は12発射管を有する。
- 10 SLBM。射程~3000km。二段式。固体燃料。最新の発射テストは2020年1月19日。K-4ミサイルを搭載するには原潜アリハントの改造が必要と考えられる。K-5(5,000km)を開発中。
- 11 第40航空団(計49機)のうち1あるいは2飛行中隊が核任務を持つとみられる。新型はミラージュ2000I。
- 12 4飛行中隊(計76機)のうち2飛行中隊が核任務を持つとみられる。
13. 開発中のインド初の国産空中発射巡航ミサイル(射程700~1000km)。

パキスタン(計 ~160)

兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
■ 戦略核 (小計~160)		
【作戦配備 (小計0)】		
【作戦外貯蔵 (小計~160)】 ²		
●GLBM (小計~106)		
アブダリ (ハトフ ²) ³	12	~10
カズナビ (ハトフ ³) ⁴	12	~16
シャヒーーン1 (ハトフ ⁴) ⁵	12	~16
シャヒーーン1A (ハトフ ⁴) ⁶	12	?
ガウリ (ハトフ ⁵) ⁷	12	~24
シャヒーーン2 (ハトフ ⁶) ⁸	12	~12
シャヒーーン ³ ⁹	12	(4)
ナスル (ハトフ ⁹) ¹⁰	12	~24
アバピール ¹¹	?	?
●GLCM (小計12)		
バブール1 (ハトフ ⁷) ¹²	12	~12
バブール2/1B ¹³	?	?
●潜水艦発射巡航ミサイル		
バブール ³ ¹⁴	?	?
●航空機搭載爆弾 (小計~36)		
搭載機: F16A/B		~24
搭載機: ミラージュV		~12
●ALCM (小計(6))		
ラ・アド (ハトフ ⁸) ¹⁵	12	(6)
ラ・アド ²		?

- 1 98年5月の核実験における地震波からの推定最大値。
- 核弾頭は配備されずに貯蔵されているとみられる。
- 射程200km。一段式。固体燃料。道路移動式。最新の発射テストは2013年2月15日。
- 射程300km。一段式。固体燃料。道路移動式。最新の発射テストは2020年1月23日。
- 射程750km。一段式。固体燃料。道路移動式。最新の発射テストは2019年11月18日。
- 開発中。シャヒーーンの射程距離を伸ばしたものの。射程900km。一段式。固体燃料。道路移動式。最新の発射テストは2015年12月15日。単にシャヒーーン1と呼ぶこともある。
- 射程1250km。一段式。液体燃料。道路移動式。最新の発射テストは2018年10月8日。
- 射程1500km。二段式。固体燃料。道路移動式。最新の発射テストは2019年5月23日。
- 開発中。射程2750km。最新の発射テストは2015年12月11日。
- 射程60km。固体燃料。道路移動式。最新の発射テストは2019年1月24日と31日。
- 開発中。三段式。固体燃料。17年1月24日に初の発射テスト。南アジア初の多弾頭弾とみられる。
- 射程350km。道路移動式。最新の発射テストは2012年9月17日。
- 開発中。バブール1を高度化した対地/対艦巡航ミサイル。16年12月14日、初の発射テスト。最新の発射テストは2020年3月19日だが、失敗した。
- 開発中。バブール2の潜水艦発射型。射程450km。初のテストは18年3月29日。
- 開発中。射程350km。最新の発射テストは2016年1月19日。

イスラエル(計80~90)

兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
-------	-------------	------

戦略核(小計80~90)

【作戦配備(小計0)】

【作戦外貯蔵】(小計80~90)¹⁾

- GLBM(小計50)
 - ジェリコ2²⁾ ? 25
 - ジェリコ3³⁾ ? 25
- 航空機搭載爆弾(小計30)
 - 搭載機:F16A/B/C/D/I⁴⁾ 30
- 潜水艦発射巡航ミサイル(小計10) (10)

北朝鮮(DPRK)(計35)

兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
-------	-------------	------

- GLBM¹⁾ <10~200キロトン²⁾
 - スカッド³⁾ ?
 - ノドン⁴⁾ ?
 - ムスダン(ファソン(火星)10,KN-07)⁵⁾
 - ファソン12(KN-17)⁶⁾
 - ファソン13(KN-08,KN-14)⁷⁾
 - テポドン2改良型⁸⁾
 - ブククソン(北極星)(KN-15)⁹⁾
 - ファソン14(KN-20)¹⁰⁾
 - ファソン15(KN-22)¹¹⁾
 - KN-23¹²⁾
 - KN-24¹³⁾
- SLBM
 - ブククソン1(KN-11)¹⁴⁾ ?
 - 北極星3号¹⁵⁾

- 1 79年9月22日、南アフリカ近海の南インド洋はるか上空で秘密裏に核実験が行われたとの説がある。核弾頭と運搬手段は分離して保管しているとみられる。
- 2 射程1,500-1,800km。固体燃料。道路移動式とサイロ式の両説がある。
- 3 開発中。射程4,000-6,500km。固体燃料。2013年7月12日に発射テストをしたとみられる。
- 4 米国製F16A/B/C/D(ファイティング・ファルコン)205機、同F15E(ストライク・イーグル、イスラエル名ラアム)25機の一部が核任務を持つと推定される。
- 5 射程2,500~3,500km。液体燃料、一段式、道路移動式。2016年に多くの発射実験。発射台50基以下。ミサイル数は不明。実戦配備の有無は不明。
- 6 射程4500km以内。液体燃料。一段式。2017年5月14日に発射実験に初めて成功。同年8月8日、北朝鮮が同ミサイルによるグアム島周辺を目標とした発射を検討していると発表し、問題となった。その後、8月28日、9月15日に日本列島上空の宇宙を飛び発射実験。
- 7 射程7,500~9,500km。液体燃料。三段式あるいは二段式。道路移動式。発射台少なくとも6基。発射実験は行われていない。
- 8 液体燃料。三段式。一度の例外を除いて人工衛星発射の宇宙発射体(SLV)として使用。ICBMとして利用したとき10,000~15,000kmの射程になると推定。SLVはウナ(銀河)、クワンミョンソン(光明星)と呼ばれる。
- 9 SLBMブククソン1の陸上版。固体燃料。二段式。道路移動式。2017年2月12日、4月5日、5月21日に相次いで発射実験。
- 10 射程7000~10,400kmのICBMとされる。液体燃料。二段式。2017年7月4日、7月28日に相次いでロフテッド軌道の発射実験。
- 11 液体燃料。二段式。17年11月29日に最初の発射テスト。ロフテッド軌道で青森県西方の日本の排他的経済水域に落下。射程13,000km相当。
- 12 開発中。射程690kmの新型戦術誘導兵器。固体燃料。一段式。道路運搬式。2019年5月4日に初の発射テスト。
- 13 開発中。射程410kmの戦術誘導兵器。固体燃料。一段式。2019年8月10日に初の発射テスト。
- 14 開発中。射程2,000km? 固体燃料。二段式。2016年に入り潜水艦からの発射実験が繰り返され、2016年8月24日には約500km飛翔して発射実験に成功したと見られる。ゴレ(鯨)級(シンポ(新浦)級とも呼ばれる)試験用潜水艦から発射。
- 15 開発中。固体燃料。2019年10月2日に初の発射テスト。潜水した俘(はしけ)から発射したとみられる。
- 1 軽量化された核弾頭や立証されたミサイル再突入体の存在の確証はない。
- 2 過去6回の核実験をしている。06年10月9日の核実験の推定値は1キロトン以下。09年5月25日の2回目は数キロトン程度、3回目(13年2月12日)は、2回目の3倍程度。そして4回目(16年1月6日)は3回目と同程度。5回目(16年9月9日)は、10~15キロトン程度とみられる。6回目(17年9月3日)は、熱核融合弾頭とみられ、過去最大級の140~250キロトンとの見つもりもある。
- 3 射程300~1,000km。液体燃料。一段式。道路移動式。核任務はあり得る。最新の発射テストは、17年3月6日、4発をほぼ同時発射。
- 4 射程1,200~1,500km。液体燃料。一段式、道路移動式。発射台100基以下、ミサイル約200発。核任務はあり得る。

4 核兵器依存国の政策

2020年6月

日本

◆「平成31年度以降に係る防衛計画の大綱」 (18年12月18日)

その基本方針の章に、次の一文がある。
「核兵器の脅威に対しては、核抑止力を中心とする米国の拡大抑止が不可欠であり、我が国は、その信頼性の維持・強化のために米国と緊密に協力していく。」

◆「国家安全保障戦略」(13年12月17日)

「核兵器の脅威に対しては、核抑止力を中心とする米国の拡大抑止が不可欠であり、その信頼性の維持・強化のために、米国と緊密に連携していくとともに、併せて弾道ミサイル防衛や国民保護を含む我が国自身の取組により適切に対応する。」

NATO非核兵器国

◆同盟の戦略概念(10年11月19日)

最新のNATO戦略文書は、10年11月19日、リスボンで開かれたNATOサミットにおいて採択されたもので、この内容は、2018年7月のブリュッセルNATOサミットにおいて再確認されている。

第18節

「同盟国の安全保障に関する最高の保証は同盟の戦略核戦力、とりわけ米国の戦略核戦力によって与えられる。英国及びフランスの独立した戦略核戦力は、それぞれ独自の抑止任務を持つものであるが、同盟全体としての抑止と安全保障にも貢献する。」

第19節

「核任務に関する集団的防衛計画の立案、平時における核戦力基地の設置、及び指揮・統制・協議体制への、同盟国の可能な限り広い参加を確保する。」

戦略以下の核兵器について

99年「戦略概念」第64節の戦略以下の核兵器の記述は、2010年の「戦略概念」からはなくなった。しかし、全米科学者連盟(FAS)核情報プロジェクトの調査では、今でも150発の米国の戦術核兵器が5か国(ベルギー、ドイツ、イタリア、オランダ、トルコ)の空軍基地に配備されている。

オーストラリア

◆「国防白書」(2016年2月25日)

最新の国防白書である2016年2月25日の「国防2016」には以下の記述がある。

5.20節

「オーストラリアの安全保障は、ANZUS条約、米国の拡大抑止と米国の先進的な技術及び情報へのアクセスによって支えられている。米国の核兵器と通常戦力のみが、オーストラリアに対する核の脅威の可能性を効果的に抑止することができる。」

カナダ

◆「北米航空宇宙防衛司令部(NORAD)」協定

カナダと米国が1958年5月12日に署名。06年5月12日に改定された。改定されたNORADの役割は縮小されたが、米国の核抑止力の一部としての役割は続く。カナダはその抑止力の恩恵にあずかる。新協定の前文に次の認識が書かれている。

「軍備削減協定にもかかわらず、今なお保有核兵器は大量であり、北米大陸を攻撃できる戦略弾道ミサイル、巡航ミサイル、あるいは長距離爆撃機によって運搬できることを認識し、…」

韓国

◆第52回米韓安保協議会議共同コミュニケ(20年10月14日)

1968年以来毎年開催される国防長官を長とする「米韓安保協議会議」の共同コミュニケで「核の傘」が確認されてきたが、最新の20年10月14日（ワシントン）のものは、次のように表現している。

「国防長官は、米国の核兵器、通常戦力、およびミサイル防衛能力を含むあらゆる軍事能力を使用して、韓国に対し拡大抑止を提供する米国の継続的なコミットメントを再確認した。」

● 欧州配備の米核爆弾

国名	基地	搭載機 (所属国)	核爆弾の数		計
			米国分担	受入国分担	
ベルギー	クライネ・ブローゲル	F-16(ベルギー)	0	20	20
ドイツ	リュヘン	PA-200(独)*	0	20	20
イタリア	アビアーノ**	F-16C/D(米)	20	0	20
	ゲディ・トーレ	PA-200(伊)*	0	20	20
オランダ	フォルケル	F-16(蘭)	0	20	20
トルコ	インジルリク	F-16C/D(米)	50	0	50
合計			70	80	150**

(表注) ※ PA-200は、米独伊共同開発の戦闘爆撃機で、「トルネード」と通称される。

※※合計が180から150に減った。その理由は明確ではない。アビアーノで保安上の理由で2015年に貯蔵庫が減ったとの情報があるので、その数を減らした。

6. 核兵器禁止条約(TPNW)



2017年7月7日、122か国の賛成により核兵器禁止条約が採択された。核兵器そのものを非合法化する初めての国際条約である。第1条で核兵器の開発、実験、生産、製造、保有、貯蔵、移譲、使用及び使用の威嚇を禁止するのみならず、これら禁止行為の奨励や誘導を禁止している。従って、他国に核使用を要請する「核の傘」政策も禁止することになる。発効に必要な50か国の批准をめざした国際的な努力が続いてきたが、2020年10月24日、ホンジュラスの批准により50か国に達した(本章9)。

❖ 核兵器の禁止に関する条約 ❖

採択 2017年7月7日

署名開放 2017年9月20日

この条約の締約国は、

国際連合憲章の目的及び原則の実現に貢献することを決意し、

核兵器のいかなる使用もがもたらす壊滅的な人道上の帰結を深く憂慮し、その結果として核兵器が完全に廃絶されることが必要であり、このことがいかなる場合にも核兵器が決して再び使用されないことを保証する唯一の方法であり続けていることを認識し、

核兵器が継続的に存在することによりもたらされる危険(事故による、誤算による又は意図的な核兵器の爆発によりもたらされるものを含む。)に留意し、これらの危険はすべての人類の安全に関わり、すべての国が核兵器のあらゆる使用を防止する責任を共有していることを強調し、

核兵器の壊滅的な帰結は、適切に対処できないものであること、国境を越えること、人類の生存、環境、社会的な発展、世界経済、食料の安全及び現在と将来の世代の健康に重大な影響を与えること、並びに女性及び少女に不均衡な影響(電離放射線の結果としての影響を含む。)を及ぼすことを認識し、